

沖縄の若者の文化と意識

白井 泰子

- I はじめに
- II 若者が集まる街
 - 1) 国際通り
 - 2) 浮島通り
- III 若者の動向
 - 1) 国際通りOPA内の
タワーレコードへの聞き取り
 - 2) 浮島通りの店への聞き取り
- IV 高校生へのアンケート
 - 1) 方法
 - 2) 結果
 - 3) まとめと考察
- V 調査を終えて

I はじめに

2004年の12月6日から10日までの間、地理学総合実験実習の一環として沖縄県に調査に行くことになった。筆者の担当となったテーマは「アイデンティティ」であり、他の都道府県とは異なった世替わりの歴史をもつ沖縄の人、特に高校生のアイデンティティについての調査を行なった。このテーマの選定は、我々本土の人間は沖縄と言えば青い海といった南国イメージと、戦争・基地といったイメージを思い浮かべ、現在も基地問題に直面している沖縄県民の戦争・基地に対する意識の高さを想像するが、それは実際に戦争を体験していない若者においてはどうなのかという疑問を持ったからである。またこの他、本土の人間が持つ沖縄のイメージと、実際沖縄の人が持つ沖縄のイメージとの相違に関しても興味を持ったからである。

そこで、多くの若者が集まる那覇市で、店員への聞き取りを中心に若者全体の動向を探る。また沖縄と大阪の高校生にアンケート調査を行ない、高校生の郷土に対しての意識をとらえ、それを沖縄と大阪とで比較すること、また沖縄に対するイメージの相違について考察していきたい。

II 若者が集まる街

1) 国際通り

沖縄最大の都市である那覇の最も賑やかな場所である。久茂地の交差点から安里の三叉路までの約1.6kmをいう(図1)。沖縄戦で全域が焼け野原となり、戦後は旧那覇市一帯が米軍に占領され立ち入りが禁止された。このため人々はやむなく牧志街道沿いに定着し、湿地帯をさけてテントを張り、街道を改修しながら街の復興にとりかか

った。当時、戦後の沖縄初の新聞『ウルマ新報』の創刊に参加し、久志市（現在の名護市）で行われた第一回の市議員選挙に出馬・当選を果たした高良一の「戦争で疲れきった沖縄の人々に娯楽を」という提案から、昭和 23 年（1948 年）1 月、アーニー・パイル国際劇場という映画館が開館した。映画館は連日大盛況で、この映画館を中心に牧志街道は栄え、昭和 21 年（1946 年）年末に 1000 人に満たなかった市内の人口は、昭和 26 年には 5 万人に達した。このように国際劇場を中心に栄えたとして、現在の「国際通り」となったといわれている。戦後直後の焼け野原に築かれ、目覚ましい発展をとげたことから「奇跡の 1 マイル」とも呼ばれる。「国際琉映画館」と名を変えたアーニー・パイル国際劇場は、沖縄の本土復帰 2 年前である昭和 45 年（1970 年）に取り壊されてしまったが、現在の国際通りはデパート、みやげ物店、レストラン、カフェ、居酒屋などが立ち並び、多くの人が行き交っている（図 2 および大濱 1998 参照）

2) 浮島通り

壺屋・神里原通りから入り、「サンライズ・なは・商店街」と交差する地点から、国際通りまでの一方通行の通りである(図 1)。通りの名前の由来は「浮島ホテル」が通りに面していたことによると考えられている。金物屋・食料品・菓子屋・額縁店・小鳥屋などと並んで、戦後間もないころのホテル・旅館であった「浮島ホテル」と「球陽館」が向かい合って建っていた。「球陽館」が建ったのが 1948 年 10 月なので「浮島ホテル」や現存する通りの瓦葺き建物も前後するものだと考えられている。

平和通りや国際通りとは違う持ち味で、中心商店街の一角を形成したが（図 3）、両館が移転・閉店し、客足も両通りに移って、再活性化を課題としていたが、近年は若者たちがファッションの店を次々開店、それにつれて彼ら向けのバーや美容室も生まれている。那覇市教育委員会（2004）によると「ある店舗の経営者は、裏通りはメインストリートと違って、世間のブームを気にせず店をつくれる、と浮島通りを選んだ理由を語っていた。」と言っている。また、その店舗の経営者は「歩行者天国にすればもっと活気が出るだろう」とも言っていたという。

一方、昔ながらの店や建物も一部健在ぶりを見せている。また通りには豪壮で高層のマンションも増えている。瓦葺き建物の一部を改装して若者たちが経営する新規オープンのお店もあれば（図 4）、廃業・閉店したままの店もある。路地に入ると、閑静な住宅街といったたたずまいも残る。同ホームページによると、「戦後那覇の新旧をこの通りほど対照的に見せるところは他にない」。

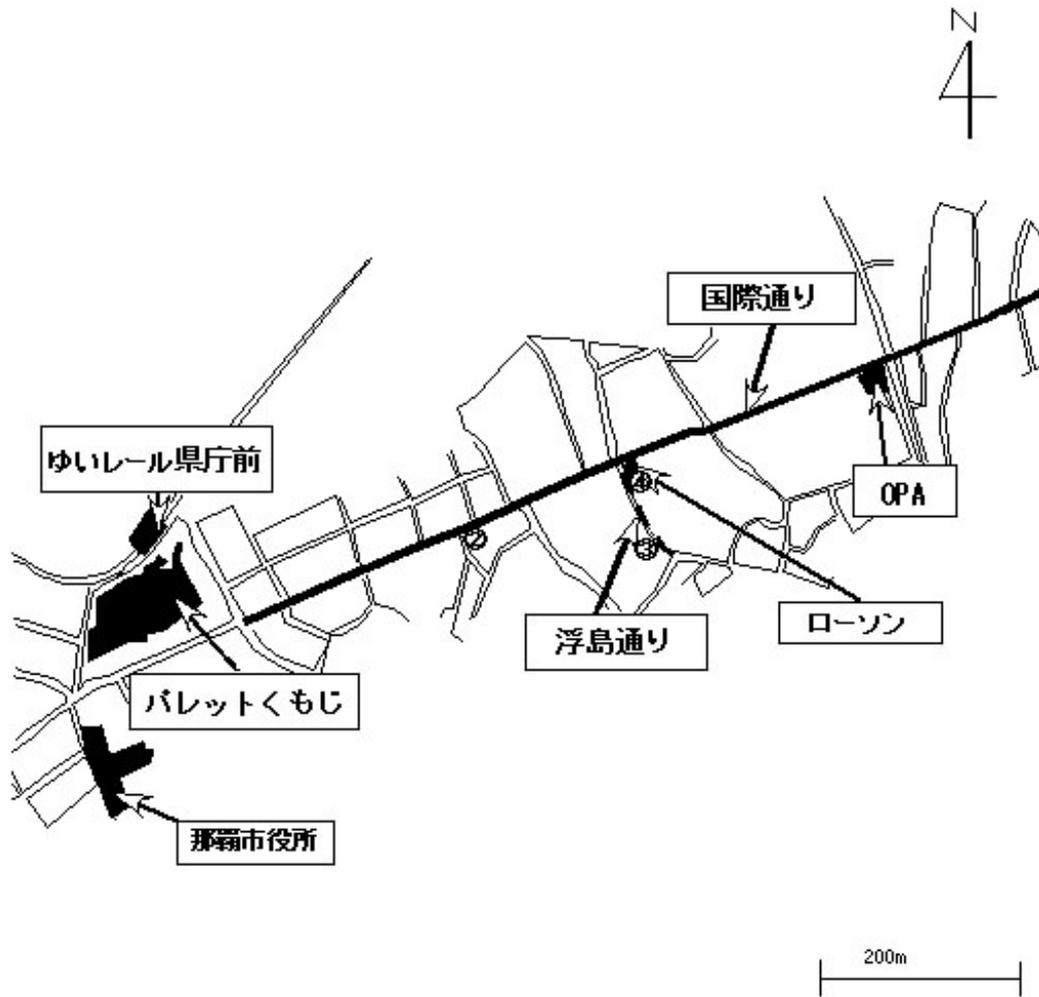


図1 那覇市の国際通り近辺

図中の②、③、④はそれぞれ下図2、3、4の撮影場所を示す

出典) goo 地図より筆者作成



図2 国際通りの様子



図 3 浮島通りの様子



図 4 浮島通りの建物の様子

III 若者の動向

1) 国際通り OPA 内のタワーレコードへの聞き取り

沖縄と言えば沖縄特有の音楽を思い浮かべる人も多い。またメジャーデビューしているミュージシャンの中にも沖縄出身者が多く、メディアでも「沖縄出身のアーティスト」として取り上げられることが多い。そこで、幅広く多量の商品を扱う大型外資系レコードショップであるタワーレコード那覇店で聞き取りを行ない、J-POP を対象に、那覇店で売れているアーティストや特に売り出しているアーティストを通して沖縄の若者の意識をみていく。

筆者が店を訪れたのが 12 月 8 日という平日の午前 11 時半頃であったため店内の客数は少なかったが若者ばかりであった。まず店の入り口すぐに沖縄出身のバンド「オレンジレンジ」¹⁾ のコーナーが大きく設けてあり、試聴ができるようになっていた。

「オレンジレンジ」は全国的にも人気があり、アルバムを発売したばかりなのでこのように宣伝されるのも当然といえる。店員によると、メジャーデビューをしているアーティストの売れ筋は全国的には変わらないようであるが、インディーズアーティストにおいては地元色を打ち出しているという。やはり客にすすめやすいこと、またアーティスト自身が売りこみに来やすいということが理由としてあげられる。しかしながら店内にはメジャーアーティストであっても大阪のタワーレコードでは特に売り出されることは少ない「国仲涼子」²⁾ の大きな看板が掲げられていたり、沖縄出身のアーティストばかりの試聴コーナーがあったりと、やはり沖縄色は強い。

インディーズ系で人気のジャンルはレゲエやパンク、ミクスチャーであり、全国的に有名となった沖縄インディーズバンド「モンゴル 800」³⁾ もその中の 1 つである。特に若者に人気のアーティストは「D-51」⁴⁾、「アフロマニア」⁵⁾、「CRIMSON」⁶⁾、「Sis.MAYUMI」⁷⁾ などであり、「Sis.MAYUMI」は沖縄でしか活動をしていないアーティストであるという。

またアーティスト自身も沖縄出身であることを大きく打ち出すことが多い。例えば上記の「オレンジレンジ」は沖縄限定ジャケットの CD を発売しており、他の都道府県の修学旅行生がこれを目当てに店を訪れることも多いという。「オレンジレンジ」同様、沖縄出身の人気バンド「HY」⁸⁾もファーストアルバムを沖縄限定で発売している。これは沖縄の人の郷土意識の強さといえるのかもしれない。

2) 浮島通りの店への聞き取り

路地に若者向けの個性的な衣料品店が並び、ひっそりとした雰囲気はただよい、メディアなどで「今熱い街」として取り上げられる浮島通り。国際通りに比べて人通りの少ないこのような路地になぜ出店したのか、浮島通りとはどんなところなのかなどを、浮島通りにある 3 つの店の店員に話を聞いた。3 つの店はそれぞれ、1997 年 10 月にオープンしたアメリカ古着を扱っている「FISHBALL」、1993 年 4 月オープンの女性用のオリジナル服とブランド服の両方を扱う「PICTURES」、1989 年 8 月オープンのセレクトショップ「WALKER」である。聞き取りは 12 月 8 日・9 日の午後 3 時ごろ、各店内で 5 分から 10 分ほど、各店一人の店員を対象に行った。(以下「FISHBALL」店員の話は F, 「PICTURES」店員の話は P, 「WALKER」店員の話は W と表す)

3 つの店は共通して高校生から 30 歳前後の地元客が多いようである。確かに浮島通りを観察していてもその年代の人々が店へ入って行き、年配の人などは素通りしている。この通りに出店した理由として、「国際通りでは大きい店が多いが、ここなら小売店として融通がきき好きなことができるから (P)」、「人が少ないのが好きだったから (W)」と言っている。また浮島通りのイメージを聞くと、「商売として店をしてるんじゃない、服が好きだからやってる店が多い感じ (F, P)」と言う。確かに浮島通りの店はそれぞれに個性があり、古着を扱う店や、黒っぽいドレスのような服を扱う店、アロハシャツばかりを扱う店などと統一性がない。



「WALKER」の外観

メディアなどで「浮島通り」としてピックアップされることに抵抗を感じているようで、客には「通り」として来るのではなく、その「お店」として来てもらうことを望んでいる。「流行っているから」で来る人をあまり対象としていないとも話す (W)。ゆえに各店が協力して通りを掃除する事はあっても、全体として通りを盛り上げて行こうという体制はなく、各店それぞれが持っている考えを強制したりはしない。大阪の南堀江の立花通りも、アメリカ村などミナミの中心からはずれた場所にあり、通りの両側に若者向けの衣料品店が並び、メディアに頻繁に取り上げられることから、浮島通りには立花通りと同じイメージを持っていたのだが、「『堀江』と言ったら『堀江』って感じ。堀江のイメージはすぐに湧く。浮島通りはそういうふうなのとは違うと思う。『浮島通り』と聞いてイメージを湧かせてほしくない (F)」と言う。



「PICTURES」の店内



「FISHBALL」の店内

今後浮島通りはどの様になっていってほしいかという質問には、「真のスタイルをもった店が入ってほしい。通りがメジャー化したから入ってくるのではなくて(W)」、「服屋に限らず本屋や花屋など個性的・個人的なお店に来てほしい(P)」と話している。若者に人気と言われる浮島通りは、古く使われていない建物の合間あいまに個性と信念を持った小さな店が点在する通りで、おそらく今後もそうであろうと思う。

IV 高校生へのアンケート

1) 方法

ここで使用したアンケートは、國吉(1999)を参考にして作成した。調査は沖縄県島尻郡の知念高校3年生85人、沖縄県嘉手納町の嘉手納高校3年生66人(図4)、大阪府堺市の金岡高校2年生80人に対して行なった。対象高校の選定については、沖縄県では、周辺に米軍基地のある高校(嘉手納高校)と基地のない高校(知念高校)とでは郷土に対する意識に違いがでるのでは、という筆者の予想からである。金岡高校においては、筆者が通っていた高校と同じ第8学区にあるということから選定した。調査時期は、沖縄の両校においては2004年11月~12月に、大阪の高校においては2005年1月に実施した。実施方法は各高校にアンケート用紙を郵送し、先生を通じて配布・実施していただいた。アンケートは郷土意識について5問、被調査者の郷土の人のパーソナリティ特性についての認知2問、被調査者の生き方・出身県人への希望について6問、社会的(県民<府民>・国民)アイデンティティについて4問、その他10問、全27問あり、以下では、そのうち記述式の問いと回答者のパーソナリティを問う質問を省いた20問についての回答結果の概要を、特に沖縄両校間の差異と、沖縄と大阪との差異に注目して記し、考察していく。なお、調査の際には、調査地にあわせてそれぞれの県名を記入したアンケート用紙を用いて調査を実施したが、以下の「結果」および「考察」では、各質問項目の中のそれぞれの県名・府名の部分は一括して「出身県人」、「沖縄県(大阪府)」、「沖縄県人(大阪府民)」、「沖縄の人(大阪の人)」などと表現している。また図6から図21の()はそれぞれ調査地の県名・府名が入ることを意味する。

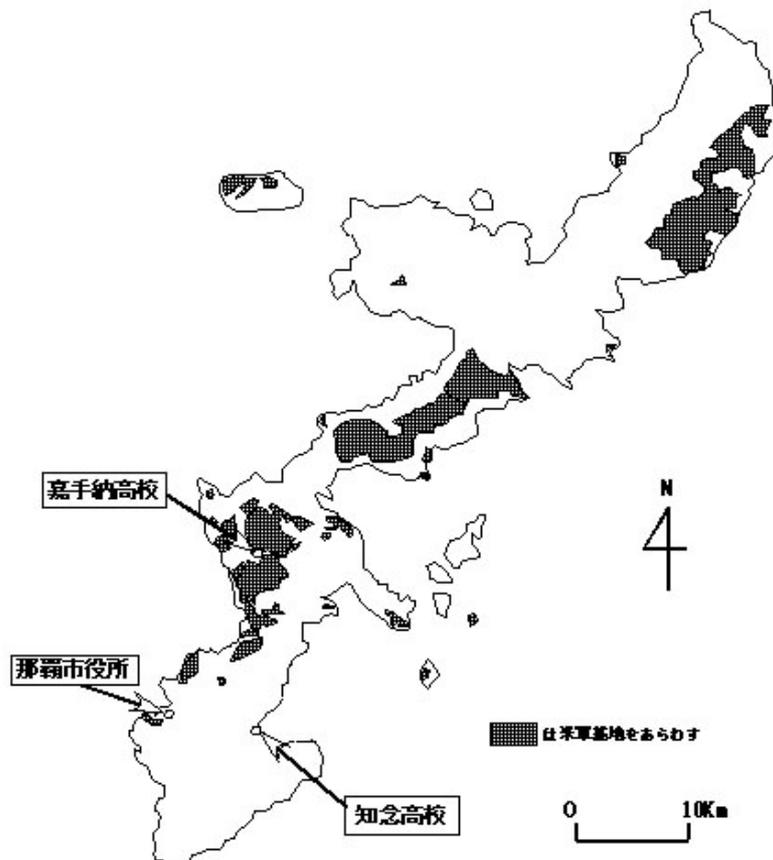


図5 沖縄県の米軍基地分布と嘉手納高校，知念高校の位置

出典)「沖縄県の地図のページ」より作成

2) 結果

問1「自分の出身県の人のももの感じ方・考え方には、他の都道府県の人とは違った特徴があると思うか」の問に対する3校の回答結果をみると、図5に示されているように、「ある」との肯定回答では、知念が78%、嘉手納が81%、金岡が77%となっており、各高校にさほどの差はみられない。一方「ない」の否定回答では知念が9%、嘉手納が13%、金岡が20%で、金岡の否定回答は沖縄両校より高い比率となっている。

問2「出身県人としての自分を意識することがあるか」の問いに対する回答の結果を図6で示しているが、「ある」という肯定回答は、知念で51%、嘉手納で72%、金岡で61%であり、各校それぞれにおいて差がみられる。

問3「一般的にいわれる自分の出身県の人々の行動の仕方と自分自身の行動の仕方が似ていると思うか」の問いに対する回答結果(図7)は、3校とも「似ている」との肯定回答に傾斜しているが、知念76%、嘉手納77%というように沖縄両校の方が大阪の金岡(63%)に比べて高い比率となっている。

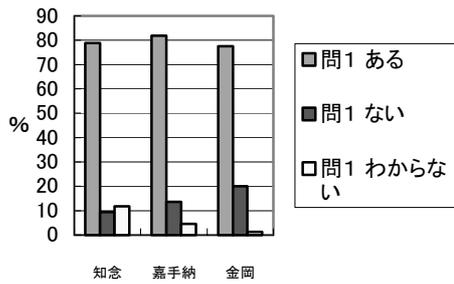


図6 ()の人のものの考え方・感じ方には、他の都道府県の人とは違った特徴があると思いますか。

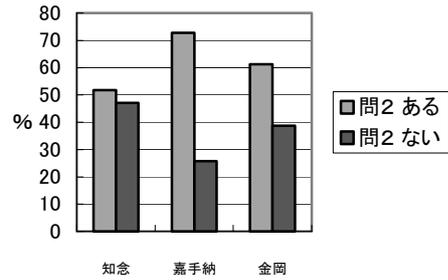


図7 ()人としての自分を意識したり、させられたりすることがありますか。

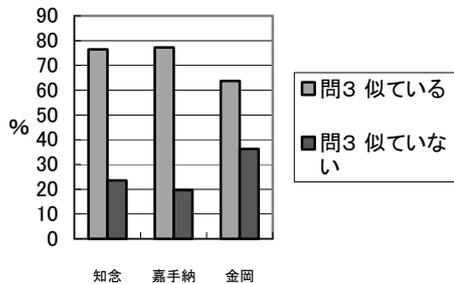


図8 一般的に言われる()の人の行動の仕方とあなた自身の行動の仕方とは似ていると思いますか。

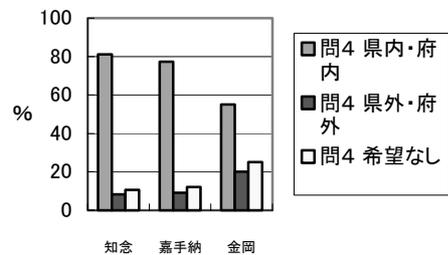


図9 人生の中での最後の居住地をどこにしたいと思いますか。

問4「人生最後の居住地をどこにしたいか」の問いに対する回答を図8で示しているが、沖縄県内（大阪府内）と答えた人が知念では81%、嘉手納では77%であるのに対し、金岡では55%と低い比率であった。また「特に希望する所はない」との回答率は金岡が25%であるのに対し、沖縄両校は低い比率であった（知念10%、嘉手納12%）。

問5「出身県を離れたと思うことがあるか」の問いに対する回答結果（図9）は、「ある」との肯定回答は知念54%、嘉手納71%、金岡41%と、各高校で差がみられたが大阪が最も低い比率であった。

問6「甲子園の高校野球をみているか」の問いに対しては、図10にみられるように、「沖縄県（大阪府）代表が出場するときだけみる」と答えた人は知念、嘉手納でそれぞれ55%、39%であってここにも差がみられるが、これに対し金岡は10%とさらに目立って低い。また、知念と嘉手納では「沖縄県代表が出場するときだけみる」との回答が最も多いが、金岡では「ほとんどみない」との回答が最も多く、37%であった。

問7「もしも沖縄県外（大阪府外）の人から、＜沖縄の人（大阪の人）は閉鎖的だ＞と言われたらどう思うか」の問いには、3校とも「むしろ開放的だ」との回答が最も多かったが、知念26%、嘉手納49%、金岡61%と、各校で差がみられたが大阪が最も高い比率であった。逆に閉鎖的な部分があると認める回答（回答番号1～5＜資料1参

照＞)の合計は知念、嘉手納でそれぞれ33%、30%に対し、金岡では11%であり、沖縄と大阪とで差がみられた。

問8「他の都道府県の人(大阪の人)から特に学んでほしいと思うことがあるか」の問いに対して、「ある」と答えた人が知念62%、嘉手納63%であるのに対し、金岡は43%と低い比率を示している(図11)。また問9「沖縄の人(大阪の人)が他の都道府県の人から特に学んでほしいと思うことがあるか」の問いに対して、「ある」と答えた人が知念43%、嘉手納51%、金岡21%と、沖縄両校でも差はみられるが、ここでも金岡は目立って低い比率である(図12)。

問10「日本人(または出身国人)であること」の誇りについて尋ねたところでは、3校とも「誇りに思う」との肯定回答が最も多いが、知念で54%であるのに対し、嘉手納では68%、金岡では62%と沖縄内で差がみられる(図13)。また問11「出身県人であること」の誇りについては、3校とも問10よりも高い比率で「誇りに思う」と肯定回答しているが、ここでは沖縄と大阪とで差がみられる(知念82%、嘉手納83%、金岡70%：図14)。

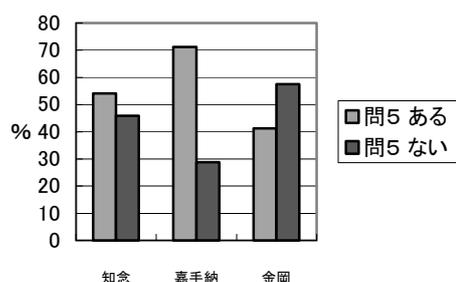


図10 あなたは()を離れたいと思うことがありますか。

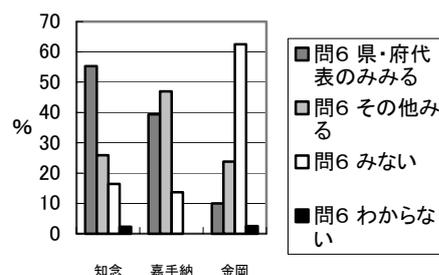


図11 あなたは甲子園の高校野球をみていますか。

問13「自分の生き方」を尋ねたところ、3校とも「毎日が楽しくなるように行動する」という現在中心の生き方の回答率が最も高いが、沖縄と大阪とで差がみられた(知念48%、嘉手納48%、金岡57%)。

問14「もう一度生まれ変わるとしたら、どこに生まれたいか」の問いに対しては、「沖縄県内(大阪府内)」と答えた人が嘉手納で56%だったのに対し、知念では48%、金岡では46%と、沖縄内で若干の差がみられる(図15)。

問15「沖縄(大阪)には情熱を持って取り組めるもの(こと)を持っている人」については、3校とも圧倒的に「多い」との肯定回答が多く、金岡が最も高い比率を示している(知念72%、嘉手納75%、金岡83%：図16)。

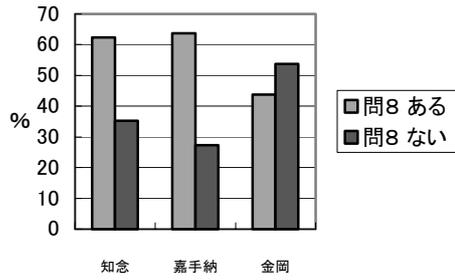


図 12 他の都道府県の人から特に学んでほしいことがありますか。

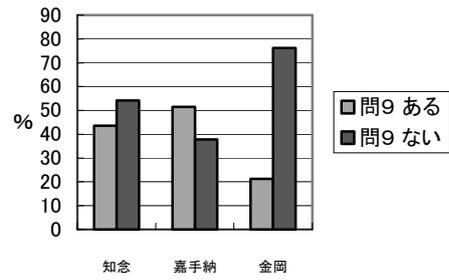


図 13 ()の人が他の都道府県の人から特に学んでほしいことがありますか。

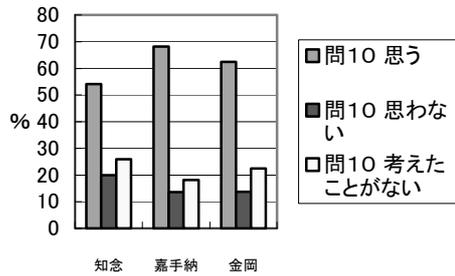


図 14 あなたは日本人であることを誇りに思いますか。

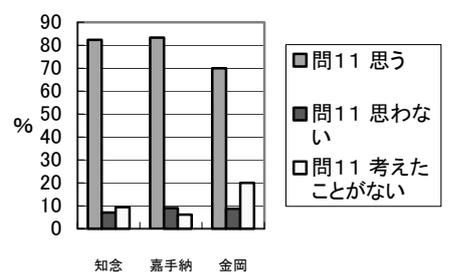


図 15 あなたは()人であることを誇りに思いますか。

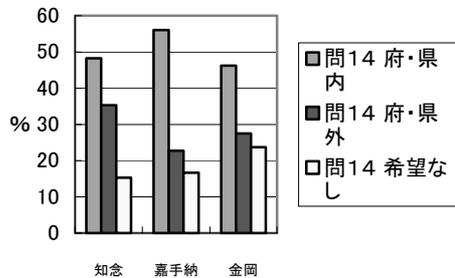


図 16 もう一度生まれ変わるとしたら、どこに生まれたいですか。

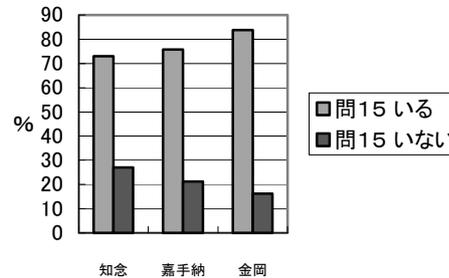


図 17 ()には情熱をもって取り組めるもの(こと)を持っている人がいますか。

問 18 「沖縄（大阪）の行事や祭りに参加したいと思うか」の問いについては、3校とも「参加したい」との肯定回答が多いが、沖縄と大阪とで若干の差がみられる（知念 89%、嘉手納 92%、金岡 82%：図 17）。

問 19 「もう一度生まれ変わるならいつがいいか」の問いに対して、「過去」と回答した人が知念と嘉手納でそれぞれ 38%、42%で最も多いのに対し、金岡では「未来」との回答が 48%と最も多い。逆に「未来」との回答は沖縄両校で最低（知念 28%、嘉手納 15%）であり、金岡での「過去」との回答は 22%と最も低くなっている（図 18）。

問 20 「今後、沖縄の人（大阪の人）のものの見方・考え方を変えていかなければならないと思うことがあるか」の問いについて、「ある」、「ない」、「わからない」の3つ

の選択肢の中で、「ある」との肯定回答が知念で 37%、嘉手納で 45%と、沖縄内でも差がみられるのだが、金岡では 18%となっており、沖縄と大阪とでは大きな差がみられる。また、「ない」との否定回答は知念 27%、嘉手納 28%に対し、金岡では 53%と非常に高くなっている（図 19）。

問 22 「他校の高校生を見かけたとき、どのように感じるか」の問いに対して、3 校とも「何も感じない」が最も多かった（知念 56%、嘉手納 48%、61%）が、「親近感を感じる」との回答率が知念、嘉手納でそれぞれ 22%、33%であるのに対し、金岡では 8%と非常に低かった（図 20）。

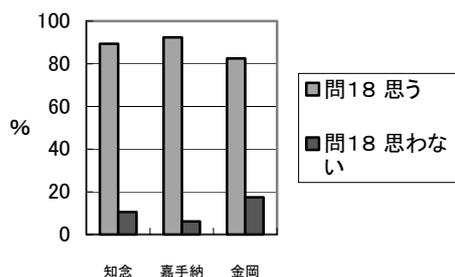


図 18 あなたは()の行事や祭りには参加したいと思いますか。

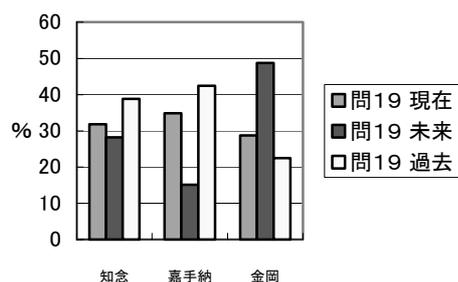


図 19 もう一度生まれ変わるとすれば、次のどの時を選びますか。

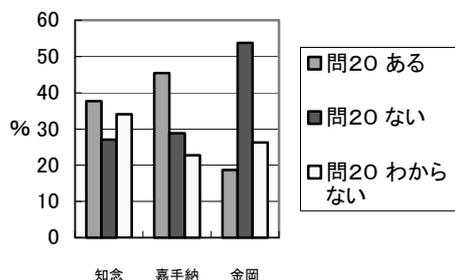


図 20 今後、()の人のものの見方・考え方を
変えていかなければならないと思う
ことがありますか。

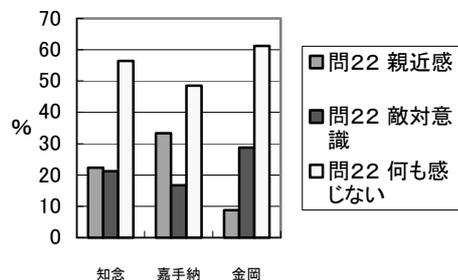


図 21 学校以外の場所(繁華街など)で、他校の高校生を見かけたとき、どのように感じますか。

3) まとめと考察

これまで述べてきた 3 校の高校生の回答結果をもとに、ここではまず沖縄の特性を大阪と比較しながら、先述の國吉を参考にしながらみていく。

「沖縄の人（大阪の人）が閉鎖的だ」といわれることに対して、「他県人に対し違和感を感じるから」とか、「自己表現が不十分だから」という回答や、また、「他県人から学んでほしい」、「他県の人でも沖縄から学んでほしい」などと回答する人が沖縄のほうが大阪よりも目立って多く、さらにまた、「沖縄の人（大阪の人）のものの見方・考え方を
変えていくべき」という回答率が沖縄のほうが高くなっている。このことは、「他県との間に心理的距離が大きいことを示唆し、そしてまた、他県との相互の接触

や交流による情報交換の必要性を認識していることの反映と解釈することができよう。またそれは、沖縄の人が他者志向の傾向が比較的強いことも暗示しているように思われる」(國吉 1999 : 12)

国民・県民アイデンティティの問題に関しては、「日本人(出身国人)としての誇りをもつ」という回答率より、「出身県人としての誇りをもつ」という回答率のほうが、3校ともに高く、沖縄も大阪も国民アイデンティティより県民アイデンティティのほうが強いことがわかる。県民アイデンティティにおいては、「出身県人としての誇りをもつ」との回答率が沖縄のほうが高いが、「出身県人としての自分を意識すること」に関しては3校ともに差があり、一概に沖縄のほうが強いということとはできない。

しかし郷土に対する愛着においては、沖縄のほうが強いことが示唆された。「沖縄(大阪)の行事や祭りに参加したい」、「最後の居住地は沖縄県内(大阪府内)」、「甲子園の高校野球の際は出身県代表出場の時見る」などの回答率が沖縄の場合に高い比率を示しているのはそのことの反映と考えられよう。

ところが郷土意識が沖縄よりも低いと考えられる大阪であるが、「沖縄(大阪)を離れたいと思うことがある」と回答した人は3校の中で最も低かった。これについて考察をすると、「毎日が楽しくなるように行動する」や「沖縄(大阪)には情熱を持って取り組めるもの(こと)を持っている人が多い」との回答率が、大阪のほうが高いということは、大阪の高校生にとって大阪は「魅力的で、居心地のよい場所であると受けとめられていることを物語っている」(國吉 1999 : 14)。大阪は都市であり、交通の便もよく、他の都道府県人と接触しやすい。多様な価値観に触れることができる。ゆえに郷土意識は沖縄より低いものの、都市であり不便を感じない大阪を離れたいとはあまり思わないのではないだろうか。

そして、「一般的にいわれる沖縄の人(大阪の人)の行動の仕方と自分自身の行動の仕方が似ている」や「別の高校の生徒を見たとき親近感を感じる」と答えた人が沖縄のほうが多いことについては、沖縄では家族や親族同士のつながりが強く、沖縄特有の親族内での文化もあることが理由としてあげられるだろう(本書の中川知春による章参照)。今回実施したアンケートの記述式の回答でも、沖縄人の特徴として「人々のつながりが強い」ことをあげる人がみられた。沖縄では県民全体を家族や兄弟のように考える傾向が強いといえる。

次に沖縄内での特性の違いをみていく。「沖縄県人としての自分を意識することがある」や「沖縄の人は開放的だ」との回答率が知念よりも嘉手納で多いことについて、嘉手納のほうが基地(観光地)に近いということが理由としてあげられるだろう。基地が近くにあることで米軍関係者や基地を見にくる観光客という県外の人と接する機会が多い分、沖縄人としての自分を意識する機会が多くなり、また、県外の人と接することを受け入れている状態が開放的であるとの認識につながったといえる。

続いて郷土意識についての問いにおいて、「沖縄を離れたいと思うことがない」、「高校野球は沖縄県代表が出場するときだけみる」、「沖縄の人のものの見方・考え方を覚えていかなくてもよい」との回答率が嘉手納よりも知念で高いことから、知念のほうがより郷土意識が強いと考えられる。このような差は、嘉手納高校周辺には米軍基地があり、飛行訓練の騒音が激しく、またヘリ墜落事故が起こるなど、日々の生活

を妨害されているという嘉手納高校の生徒の現状が理由となっているのではないだろうか。

V 調査を終えて

全く面識の無い人々に連絡をとってアンケート調査の依頼・アンケート用紙の郵送・回収をするのは、今回が初めてであった。フォーマルなファックスの文章、電話での言葉遣いに悩まされ、世の中の社会人がこのようなことを日常的に行なっていることにとっても感心した。アンケート調査の依頼を断われたり、思っていた日程で物事を進められず、当初の計画を変更したりと苦労することもあった。

またインターネットや文献で得られる情報は限られており、現地に直接行って初めてその場所の雰囲気を感じることができ、自分の考えていたものとは異なる現状の存在を知ることができ、フィールドワークの重要さを感じた。また「行かないとわからない」ことを文章で他の人に伝えることの難しさを知った。

そして、今回のこの調査にご協力していただいた知念高校、嘉手納高校、金岡高校の先生方、生徒の皆様、また国際通り・浮島通りの店員の方々、その他調査に関わっていただいた多くの方々に、この場を借りて深く御礼申し上げます。

注

- 1) オレンジレンジ。01年に結成された、沖縄発のミクスチャー・バンド。沖縄県・嘉手納基地近くのコザ出身の、3MC, G, B, Drの男性6人バンド。インディーズ時より圧倒的な人気を誇る。2003年6月にシングル「キリキリマイ」でメジャー進出。
- 2) 国仲涼子。2001年NHK朝の連続テレビ小説「ちゅらさん」主演。2003年4月にシングル「琉球ムーン」で歌手デビュー。「ちゅらさん2」のエンディング・テーマだったこともあり、インディーズからのリリースにもかかわらず好セールスをマーク。
- 3) MONGOL800。1998年高校在学中に現在のメンバーで結成。男性3名によるメロコアバンド。1999年にファーストアルバム「Go On As You Are」を沖縄限定で発売。
- 4) D-51。2003年結成、男性ボーカル2人によるユニット。北谷町美浜のカーニバルパークでのストリートライブから始まり、2004年7月メジャー進出。
- 5) アフロマニア。男性5人からなるツインボーカルのロックバンド。ファーストミニアルバム「国道58号線」が2004年11月に発売。
- 6) CRIMSON。2002年5月結成男性4人、女性1人によるミクスチャーバンド。
- 7) Sis.MAYUMI。沖縄のクラブで活動をしている女性レゲエシンガー。
- 8) HY。男性4人・女性1人によるインディーズユニット。高校の友達の延長で2000年に結成。以来、北谷でストリートライブを繰り返し多くのファンを獲得。2003年4月発売のセカンドアルバム「Street Story」がインディーズアーティストとして初めてオリコンチャート1位を記録。ロックとR&Bとヒップホップをおりまぜたミクスチャー・サウンドを展開。

文献・資料

浮島通り会 (2004) : 浮島通り会.

<http://www.info-okinawa.net/nahamachi/14/map14.html>

大濱聡 (1998) : 『沖縄・国際通り物語—奇跡と呼ばれた 1 マイル』 ゆい出版.

沖縄県の地図のページ (2004) : 沖縄県の地図のページ.

<http://www.tiu.ac.jp/~kuwabara/okinawamappg.htm>

オレンジレンジ (2005) : オレンジレンジ公式ホームページ.

<http://www.orangerange.com/index.html>

嘉手納高校 (2004) : 県立嘉手納高等学校ホームページ. <http://www.kadena-h.open.ed.jp/>

金岡高校 (2004) : 大阪府立金岡高等学校ホームページ. <http://www.osaka-c.ed.jp/kanaoka/>

國吉和子 (1999) : 『大学生の郷土意識と社会的アイデンティティ (1)』

沖縄大学紀要第 16 号, pp.1-35.

昭文社 (2004) : 『ライトマップル 沖縄県道路地図』 昭文社.

知念高校 (2004) : 県立知念高等学校ホームページ. <http://www.chinen-h.open.ed.jp/>

那覇市教育委員会 (2004) : 「浮島通り」を歩く.

<http://www.naha-okn.ed.jp/~tsuboya/ukisima1.htm>

BGMAGAZINE (2005) : BGMAGAZINE. <http://www.bg-web.net/index2.htm>

D-51 (2005) : D-51 公式 HP. <http://www5f.biglobe.ne.jp/~d-51/index2.htm>

goo 地図 (2004) : goo 地図. <http://map.goo.ne.jp/>

HY (2005) : HY 公式ホームページ. <http://www.hymode.net/profile/>

Keyna Keyna Shopping (2005) : Keyna Keyna Shopping Okinawan Music&Movie.

<http://www.keyna.jp/studio/pickup/>

MONGOL800 (2005) : MONGOL800 公式 HP. <http://www.highwave.co.jp/mongol8/>

OngakuDB.COM (2005) : OngakuDB.COM.

<http://www.ongakudb.com/contents/artist.aspx?code=0005052>

YAHOO! JAPAN MUSIC (2005) : YAHOO! JAPAN MUSIC. <http://music.yahoo.co.jp/>